

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400069		
法人名	医療法人 社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄2号館		
所在地	山口県萩市大字福井3507番地11		
自己評価作成日	平成 28年 3月 28日	評価結果市町受理日	平成28年9月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 28年 4月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○全職員が有資格者であり、それぞれの専門性を活かして、お互いの意見が出しやすい環境で、昨年から取り入れた個別支援(日記を書く、外出支援)に力を入れ、利用者の思いを大切に、希望に沿ったケアを心掛けている。
○医療法人である為、緊急時や夜間の利用者の容体の変化に対し、医師や看護師の助言を受けることで対応の相談や、指示を仰ぐことが出来る。又、普段より緊急時の対応の研修をしていることで、慌てることなく医療機関への連絡等もスムーズに行うことが出来る。同敷地内に当直職員が常駐しており、夜間や、緊急時や災害時には、地域の協力体制が得られることにより、利用者や職員は安心できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に於いて市の防災担当職員から、土砂災害時の対応について具体的な提案を受け、事業所独自のフローチャートを作成され、夜間想定避難通報訓練を実施しておられます。地域協力員の会議を概ね2ヶ月に1回開催され、情報交換を密に行われ、事業所の夏祭りへの参加支援や避難訓練時には見守り、誘導の支援を受けておられます。地域協力員である行政推進員が緊急連絡網に加入され。他の地域協力員に連絡をいただける協力体制ができています。日々の関わりの中での利用者の言葉や思いなどを介護記録に記録され、利用者を担当している職員が1ヶ月毎にセンター方式のシートにまとめられ、思いや暮らしかたの希望の把握に努めておられ、懐かしい場所や生誕地の訪問、個別の外食などの支援をされています。今年度は外部研修の「認知症の方の思いを探る」や「認知症の人の生活支援の基本視点、家族支援の視点」などに、10回の参加の機会を提供され、職員のスキルアップに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、事業所内に掲示している。職員は名札の中に携帯し、理念の意識づけを行い、自身の年間目標を法人に提出している。職員全体会議や研修を行い、実践に繋げるよう努め、職員間で共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。内部研修(理念と接遇)を実施し、職員全体会議時やカンファレンス時、日常業務の中で話し合いをして確認し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、代表が地域の集会に出席し、情報交換したり、地域の開催行事の情報収集をしている。災害時の地域との協力体制として、概ね2ヶ月に1回、地域協力員との定例会議を開催している。災害時だけでなく、華房福栄3施設の夏祭りにも協力頂き、地域の方への呼びかけも行っている。地域の小学校の児童との交流、近くの道の駅のイベントにも参加、おしゃれ教室のボランティア来訪、職員は地域他職種とのスポーツ大会に参加する等、交流を図っている。	自治会に加入し、初寄り会や草刈り、溝掃除に職員が参加している。拠点施設合同の夏祭り等で地域住民と交流している。地域の福祉祭り等(年4回)のイベントに利用者と一緒に参加して交流している他、地域の敬老会に参加している。小学生の来訪が2回あり楽器演奏やお話などで利用者と触れ合っている。ボランティア(おしゃれ教室、ハンドマッサージ)の来訪がある。職員は地域他職種とのスポーツ交流会に参加している。地元の地域協力員(10名)と概ね2ヶ月に1回会議を開催し、防災訓練や事業所の夏祭り等について話し合い、協力を得ている。周辺の散歩時には地域の人と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には、2ヶ月に1回発行している事業所だより(施設の状況、活動報告等を掲載したもの)を配布している。地域への働き掛けはあまりないが、地域の方の入居に向けての支援に努めている。又、要望があれば、研修会等の開催も考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より外部評価の意義について説明し、自己評価をするため、全職員に配布し、自己評価に取り組み、記入後、職員間で話し合い、意見をまとめる。外部評価の評価結果を受け止め、日頃の業務の見直し、ケアの実践について話し合う機会にもなり、どのようにしたら実践に繋げることが出来るか、具体的な対応策を考え、改善に向けて努力している。	管理者は評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者と計画作成担当者がまとめている。職員は日々の支援の振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、管理者(看護師)の指導で誤嚥や転倒、意識混濁などの応急手当や初期対応に取り組んでいる他、内部研修で救急救命法を実施しているなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に年6回開催している。行政、地域の代表、ご家族の参加のもと、利用者の状況や活動報告、行事予定を報告し、意見交換をしている。消防関係の方には、年2回参加頂き、避難経路、災害時の対応策の意見交換を行う。地域の方には協力員という体制も出来、災害時、行事の取り組みについての協力を得ることも出来、サービスの向上に活かすようにしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、地域協力員(2名)を含む地域代表や家族、市の担当者の参加を得て、利用者状況や活動状況、防災訓練、外部評価結果等を報告し、意見交換を行っている。市の防災担当職員の2回の参加があり、土砂災害時の対応について具体的な提案を受け、事業所独自のフローチャートを作成し、初めて夜間想定避難訓練を実施して、夜勤者が通報時の手順の確認を行うなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用状況の報告や、支所の窓口に出向き介護保険の更新手続きをして頂いたり、その時に情報の収集を行うこともある。又、代表が地域ケア会議に参加し、情報の交換をする等、協力関係が築けるよう取り組んでいる。申請の訪問調査時や、実地指導の際、事業所の実情や、ケアサービスの取り組みを伝えるようにしている。	市担当者(支所の窓口)とは運営推進会議時に相談や情報交換をしている他、介護保険の更新手続きなどで出向き、情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とはサービス利用等について相談、情報交換をして連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、職員は、常日頃より抑制や、拘束の無いケアに取り組んでおり、職員会議や研修を行っている。又、スピーチロックや行動を抑制するような動きがある時は職員間で注意し合う関係作りをしている。玄関の施錠はせず、利用者の行動を抑制しないよう動向を見守り、散歩やドライブ等で気分転換を図り、安全面に充分配慮しながら、見守りや声掛けを行っている。	身体拘束マニュアルがあり、月1回行っている職員全体会議において、具体的な理解を深め、身体抑制や拘束のない支援に取り組んでいる。スピーチロックに気づいたときは、職員間で注意し合っている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には職員が一緒に付き添うようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内には委員会もあり、研修の機会があれば出来るだけ参加し、内容は職員会議等で復命し全員に周知を図る。施設内研修を行い虐待を見逃さないよう不適切なケアが行われていないか職員間で話し合ったり、注意し合える関係作りに努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修の機会には積極的に参加し、職員はそれぞれの制度を解りやすく復命研修を行う。現在、利用されている利用者はおられないが、今後必要性のある制度に対し、理解を深め支援できる体制をつくっていくよう努める。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要説明事項に沿い、十分な説明を心掛けている。利用者や、ご家族の不安や疑問に対しては解りやすく説明し、安心して頂けるような助言をしている。又、施設に対する要望をお聞きし希望に添えるよう努めている。制度改正があった時には、書面にて説明し、承諾を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情目安箱を設置している。苦情相談の受け付け体制や、処理手続きについては契約時にご家族に説明をしている。利用料の支払い時、面会時には必ず声掛けをし、意見が聞かれるような場を設けている。意見が出た時は、職員間で話し合い、その結果、改善点を家族に報告し、施設の運営に反映出来るよう努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議時や面会時、電話、毎月の利用料金支払い時に家族から意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対する要望には対応しているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全体会議、申し送り時や、個人面談を設け、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、気軽に意見が出し合える関係づくりに努めている。業務の中での改善点も積極的に意見が出せるよう、コミュニケーションを取っている。	管理者は月1回の職員会議時や申し送り時、年1回の個人面談時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員の家庭状況等で勤務を柔軟に組み替えて働きやすい体制づくりをしているなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休を優先し、勤務調整を行っている。管理者は常に現場に出て勤務状態の把握をし、働きやすい環境づくりを心掛けている。又、委員会等を立ち上げ、それぞれの力が発揮できる機会の場を作っている。又、職員の資格取得に向けた支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、伝達研修を行い全職員で共有している。内部研修は日々の業務の中で「緊急時の対応」「誤嚥時、転倒時の対応」は、実践研修を行いスキルアップが図れるよう取り組んでいる。新人研修は、4日間の法人研修の後、日々の業務を通じて、先輩職員から、知識や技術が学べるよう取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は回覧して共有している。今年度は「認知症の方の思いを探る」や「認知症の人の生活支援の基本視点、家族の視点」等に10回参加している。法人研修は資料を回覧し、共有している。内部研修(接遇、緊急時の通報訓練、緊急時の初期対応、バイタルの確認、誤嚥時の対応、転倒、骨折の応急処置等)は、管理者(看護師)が日常の業務の中で実践研修を行い、働きながら学べるように支援している。全職員が資格を有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の加入はしていないが、研修案内の通知はある。外部研修の際、他施設の職員とグループワークを通じて問題点や、困難事例を話し合う機会や、交流はある。ネットワーク作りには至っていないが施設に生かしたいことなどを話し合い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時等に家族と一緒に見学して頂いたり、ご自宅に訪問し、直接ご本人、ご家族と面談し、思いや要望、不安に思っておられることをお聞きし、解決法を一緒に考え、不安の解消に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問、面会時に、ご本人や、ご家族にこれまでの生活歴や最近の様子、サービス導入するにあたっての思いをお聞きし、支援に役立てるようにしている。又、関連機関から情報収集をしながら、要望に応えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から、現在の状況を詳しくお聞きし、介護支援専門員を中心に、医療や、地域包括センター等と連絡を取りながら、必要なサービスを検討する。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能をしっかりと把握し、その上で役割分担を決め、お互いに協力しながら出来ることをして、自立に近づけるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事や苑外レク、誕生会に、ご家族にもお声掛けをし参加して頂き交流を持ち、生活場面も見て頂くことで関係の継続が保てるよう支援している。面会時には、ご家族とゆっくり過ごして頂くよう、居室へ案内するなどの配慮をしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中で、思い出の場所、行ってみたいところ等をお聞きし、ドライブに出掛けたり、誕生月には本人のご要望をお聞きし、外食や買い物に出掛けたりしている、又、ご家族の協力を得て近隣に住んでおられる知人宅へ訪問されたり、郵便局の手続きや、親戚の食事会、地区の敬老会に参加される等の支援をしている。	家族の面会や孫、友人の来訪がある他、手紙、年賀状、電話での交流の支援をしている。馴染みの店での外食や買い物、懐かしい場所へのドライブ(反射炉、生誕地)、家族の協力を得ての知人宅への訪問、親戚の食事会、外食、外出など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの残存機能を活かした役割分担を持って頂く。又、行事やレクリエーションで利用者同士の交流が図れるよう場面づくりをしている。利用者間での個性のぶつかりには、職員が仲裁に入り関係の修復をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の医療機関に移行されたり、他施設に入居された場合、次のサービスがスムーズに導入できるよう情報の提供をし、必要に応じて相談も受けられる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや、普段の利用者の様子や行動を観察することにより、思いや要望を見出し、会話や反応、対応法を詳しく記録に残し、職員間で話し合い共有することで、希望に沿った生活が送れるよう支援している。	入居時の情報をフェスシートに記録して把握している。日々の関わりの中で利用者の言葉や思い、できることなどを介護記録に記録し、利用者を担当している職員が1ヶ月毎にセンター方式のシートにまとめて一人ひとりの思いや暮らし方の希望などの把握に努め、懐かしい場所や生誕地を訪ねたり、個別の夕食の支援をしている。困難な場合は職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や、ご家族からのこれまでの暮らしの情報提供をもとにフェースシートを作成している。環境変化の中で、少しでも今までの生活環境に近づけるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ることを見極め出来ることは継続し、出来ない部分は何を援助すれば自立に近づけるのか考え、日々の記録をする。変化や気づきがある時は記録に残し、職員間で現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に対し職員の担当制を設け、計画作成者と共に利用者、ご家族の意向をお聞きし、自立に向けたサービス内容を検討し計画を立てる。又、変化があればその都度介護計画を見直し、必要時にはカンファレンスを開き、現状に即した介護計画を作成している。担当者職員はその月の様子を記録に残し、モニタリングに役立てている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催している。本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。利用者の状態に変化があれば、随時見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に利用者の言葉、いつもと違う言動、興味をもたれたこと、それに対する職員の対応を記入している。ケアに対する気づき、工夫、改善点を職員間で話し合い、情報を共有し、評価に盛り込み、ケアの実践やモニタリングに役立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調不良時には、医療機関への受診の介助をし、眼科、皮膚科、歯科受診にはご家族の協力を頂いている。又、ご家族が遠方に居られたり、緊急を要する場合には、他科受診も行っている。天気の良い日、要望に応じてドライブや買い物、外食に出掛けたり、時には一緒に調理等もしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の移動理美容車を利用している。災害時やイベントの協力体制として地域の協力員の方が位置付けてあり協力員の方とも2ヶ月に一度の会議を開催している。地域の小学校の児童の訪問もあり、楽しみ事や安全面からも守られて、安心して生活が出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の意向をお聞きし、法人の医療機関や地域の診療所にて受診ができる体制は出来ている。日常生活を観察し、受診時には状況を詳しく主治医に報告し指示を仰いでいる。受診結果は電話や来訪時にご家族に伝えている。他科受診はご家族の協力も得ている。毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めるなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期受診の支援をしている。他科受診については家族の協力を得て支援している。受診時には受診表を持参している他、口頭で伝えている。受診結果は電話や面会時に家族に伝えている。緊急時や夜間は、協力医療機関と連携を取り適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを実施し、朝夕の申し送り時や、連絡ノートを活用し状況の変化を伝えている。施設内の看護師はかかりつけ医に報告し、アドバイスや対応法の指示を受ける等して、利用者の安全を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へ詳細を書面にて提供している。経過、状況観察の為、面会に出向き状況の把握をし、早めに退院できるように努めている。又、他の医療機関に入院の際には、法人の相談室と連携を取り退院時の受け入れ体制を検討している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化したり、終末期を迎えた時にどうするか、ご本人やご家族の意向をお聞きしている。重度化した時には主治医との連携を密にし、今後の方針を話し合い、ご本人、ご家族が納得いく方法を考えながら、関係者と共に支援に取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と医療機関や他施設への移設について話し合いをし、方針を共有して取り組むこととしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリ・ハット報告を記入し、対応策を職員間で話し合い検討している。報告書は法人の医療安全委員会にも報告し助言を受けている。消防署主催の救急救命法、AEDの使用方法について全職員が受講している。誤嚥時の対応、転倒時の対応についてはその場面を捉えて対応の研修を行っている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハットや事故報告書にその日の職員間で対応策を話し合い記録している。朝の申し送り時に共有し、カンファレンス時に再検討して、介護計画に反映しているなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救急救命法とAED使用方法について全職員が受講している他、管理者(看護師)の指導で転倒、骨折、誤嚥、意識混濁の対応など、日常業務の中で実践研修をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の消防関係者、協力員の方の協力を得て、法人3施設合同で夜間の火災を想定した避難、通報、消火訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に実施している。地域協力員制度も発足し、災害時にも駆けつけて頂けるよう、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年2回、拠点施設合同で夜間想定避難、通報、消火訓練を地域協力員の参加を得て実施している。緊急時の連絡網に行政推進員や地域協力員の加入があり、地域協力員会議を開催し、災害時のフローチャートの作成や避難時の見守り等について話し合いをしているなど、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴を考慮し、プライバシーを損ねないような言葉かけを心掛けている。接遇研修や、マニュアルに沿った自己評価表を記入することで、声のトーン、速度等、対応について見直しをし、不快感を与えないように努めている。職員の不適切な言動がある時にはお互いに、注意出来る関係づくりをしている。	職員は内部研修で接遇について学び、理解している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている他、事業所独自の接遇チェック表で確認している。不適切な対応がある時には、管理者が指導している他、職員間で注意し合っている。個人記録の管理に注意をし、守秘義務の徹底を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で充分コミュニケーションを図り、ご本人の言葉、思いが聞き出せるよう支援している。又、一言日記を書いて頂く取り組みの中で、希望や不安に思われていることを書いておられることもあり把握の一貫として継続している。言語障害や聴覚障害の利用者には、解りやすい言葉や身ぶり等でコミュニケーションを図り、思いを感じとるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や状況に合わせて柔軟な対応をするよう心掛けている。又、利用者の言葉を大切に希望を示された時には出来るだけ添えるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、外出や受診時の身だしなみの支援や、介助をしている。又、ご家族の了解のもと、好みの洋服を一緒に買い物に出掛けたり、ボランティアによるお化粧、ハンドマッサージをして頂いたり、移動理美容車を利用され、カット、毛染めをするなどして、おしゃれを楽しまれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済み食材を利用し、ご飯、汁物は事業所で調理している。行事や、誕生会には利用者の希望を取り入れた献立にしたり、簡単な調理と一緒に実施することで利用者も楽しみにされている。食前には体操や、口のリハビリを実施し、誤嚥防止に努め、美味しく食べて頂けるよう支援している。又、ゆっくりと食事を摂って頂けるよう、テレビは消し、静かな音楽を流したり、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。準備、後片付けも出来ることは分担し、実施して頂いている。	三食とも調理済み食材を利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。行事や誕生会には利用者の希望を取り入れている。利用者の状態に合わせて刻みなど形状の工夫をしている。クッキングの日を設けてホットケーキやたこ焼き、どら焼き、コーヒージェリーなどを職員と一緒に手づくりしている。利用者はテーブル拭きや下膳、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながらゆっくり食事をしている。季節行事や誕生会、月に1度カレーやラーメンなどの好みを採り入れたり、刺身などを食べる外食を取り入れるなど、食事を楽しむための支援をしている。弁当箱に食事を詰替えて、事業所の前庭でピクニックを楽しむなど工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の配食サービスを受けており、栄養のバランスは摂れている。食事の摂取量や、水分量はケア記録に記入し、一日を通じて必要量のチェックを行うなど職員間で把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、行き届かない箇所は磨き直す、又、義歯の方は、夜間、洗浄剤を使用し、口腔内の清潔保持に努める。歯科受診が必要な時は、受診に繋げるよう支援している。		
44	(19)	○排せつの自立支援 排せつの失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、週刊を活かして、トイレでの排せつの自立に向けた支援をしている。	排せつチェック表を利用することで、排せつパターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排せつを心掛けている。紙パンツ、尿取りパットは個々に合わせた物を使用し出来るだけ汚染につながらないよう、自立に向けての支援を行っている。汚染時には洗浄や入浴を行い、清潔の保持にも努めている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや運動の促しをして、自然な排便の習慣づけを心掛けている。便秘気味の方には主治医に指示を仰いで服薬でコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、13時30分から16時までの間、一日おきに個別対応でゆっくりと入浴できるよう支援している。浴室や脱衣場には温度差が無いようコントロールをし、環境を整えている。又、汚染時やその日の状況に合わせて、無理なく入浴できるよう配慮している。	入浴は毎日入浴できるように準備し、希望に添って13時30分から16時までの間に昔話をしたり、歌を歌ったり、職員との会話を楽しみながら入浴できるように支援している。入浴をしたくない人には時間や曜日の変更、声かけの工夫をしている。体調に応じて清拭やシャワー浴、足浴、部分浴などの対応をして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に留意し、空調設備や換気機能、加湿器を使用することで快適に過ごせるよう環境整備をしている。季節や室温、湿度に合わせて寝具の調整、リネン交換も行い、気持ちよく休んで頂けるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬情報をファイルに閉じて、全職員が内容を把握できるようにしている。全職員は服薬時間、種類、目的、容量等確認し、誤薬が無いよう心掛けている。服薬変更時には、様子観察を行い、変化がある時は医師に報告し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握し、役割分担をしてお手伝い頂いている。一日の中で、午前、午後と気分転換が図られるようレクリエーションを実施している。又、年間行事の中で、利用者の希望を取り入れた行事(りんご狩り、外食、買い物)を計画したり、個別支援の取り組みにも努めている。	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、歌体操、ラジオ体操、オリジナル体操、双六、トランプ、カルタ、脳トレドリル(計算、漢字)、パズル、洗濯物干し・たたみ、モップ掛け、夏祭り、ボタン付け、衣服の整理、新聞紙のゴミ箱づくり、テーブル拭き、下膳、盆拭き、季節の行事(餅つきなど)、ボランティア(おしゃれ教室)、小学生との交流など活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人ひとりの希望をお聞きし、利用者の担当職員が個別支援として外出等の支援をしている。又、天気の良い日には、苑の周辺を散歩されたり、ドライブに出掛け季節を感じて頂けるようにしている。行事の一貫として、りんご狩り、年始の挨拶回り等には、ご家族の協力を頂いている。	周辺の散歩や買い物、季節の花見(梅、桜、つつじ)、ドライブ(道の駅、反射炉、松陰神社など)、リンゴ狩り、寺参り、地域の敬老会、福祉祭りや道の駅まつりの見学などに出かけている他、家族の協力を得ての生家訪問、親戚への新年の挨拶廻り、外出、外食などで戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に了解を頂き、預り金を預かっている。苑外レクや外出時には、ご本人が希望されれば買い物したり、レジにて支払いをして頂くよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話を取り次いだり、掛ける等の支援をしている。ほぼ毎日、一言日記を書くことで文字に親しまれる環境を作り、今年のご家族宛に、年賀状を出して頂きました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除に加え、担当者により居室内の掃除、環境の整備に取り組んでいる。又、トイレの前には使用中の札を掛け、使用中であることが解るような工夫をしている。リビングは広く、天窓、道路側の窓からの自然採光、室内には、テレビ、大きなソファやテーブル、椅子が配置してあり、利用者が思い思いの場所で過ごして頂けるように配慮している。季節の花を飾ったり、その時期に応じた壁面の製作を一緒にしたりして季節を感じ、楽しんで頂けるよう工夫している。	玄関には庭先に咲いている季節の花が活けてある。居間兼食堂は広く、窓からは道を歩く近所の人の姿や季節の草花を眺めることができる。天井には明かり窓がある他、窓から差し込む陽ざしで明るく、食卓やテレビ周辺の大きなソファは利用者の居場所となっている。壁には折り紙の作品や歌詞、手づくりの日めくり、絵画などが飾ってあり、季節を感じられるよう工夫をしている。換気や温度、湿度などに配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は共有のスペースであり、テレビや雑誌を読まれたり、食後はゆっくりとソファでくつろいだりされている。又、レクリエーションの場所として楽しんで頂けるよう環境を整えている。利用者同士でコミュニケーションが取れるようテーブル席を定期的に変えたりと工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示ボードに、ご家族の写真やご自分で作成された壁飾りを掲示し、話題作りに役立てている。又、入居の際や家族の面会時に、ご本人が使われていたもの(パズル、知恵の輪)や、思い入れのあるものを持ってきて頂いたりして、ご本人が落ち着ける環境づくりをしている。	ダンス、衣装ケース、時計、テレビ、衣装かけ、パズルや知恵の輪などを使い慣れたものや好みのものを持ち込み、ぬり絵の作品や孫などの家族写真、カレンダーなどを飾り、居心地よく過ごせるような工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の壁には手すりが設置され、歩行不安定な利用者は手すりを使用し安全に移動できるよう配慮している。木製のカレンダーを設置し日付けの確認をしたり、ホワイトボードで献立の紹介をしたり、掲示物等から季節や、時候が解るように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム華房福栄2号館

作成日：平成 28 年 8 月 31 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための、応急手当や、初期対応の定期的な訓練の実施	急変や事故に備えて、応急手当、初期対応の訓練を継続することで実践力を身につける	・施設内で起こりうる事故に対しての定期的な研修、訓練の実施（看護師を主体に、日々の業務のなかでの研修にも取り組む） ・外部研修や、内部研修の充実を図り、実践力に繋げていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。